

タイカミック 4 0 仕 様 書

(T R — 3 0)

1. **適用範囲** この仕様書は、JIS G 5526 及び JIS G 5527 で規定する T 形継手などの接合に用いる離脱防止金具「タイカミック 4 0」について規定する。

2. **引用規格** 次に掲げる規格は、この仕様書に引用されることによって、この仕様書の規定の一部を構成する。これらの規格は、その最新版を適用する。

JIS G 5502	球状黒鉛鋳鉄品
JIS G 5526	ダクタイル鋳鉄管
JIS G 5527	ダクタイル鋳鉄異形管
JIS G 5527 附属書	ダクタイル鋳鉄管及び異形管用接合部品
JIS Z 2245	ロックウェル硬さ試験方法
KIS A 130	合金ボルト・ナット仕様書

3. **構 造** タイカミック 4 0 の構造は、付図に示すとおり本体、駒、連結棒、T 頭ボルト・ナット（以下ボルトという）及びスペーサーよりなる。

4. **形状、寸法及びその許容差** タイカミック 4 0 の形状、寸法及びその許容差は、付図による。なお、形状及び寸法の検査は、適切な測定器具又は限界ゲージなどを用いて全数行う。

5. **材 料** タイカミック 4 0 の材料は、次による。

5.1 本体の材料は、JIS G 5527 附属書の 類による。

5.2 連結棒及びボルトの材料は、KIS A 130 による。

5.3 駒の材料は、表 1 の化学成分を有する低合金ダクタイル鋳鉄とし、熱処理後の硬さは、HRC25～50 とする。

5.4 スペーサーの材料は、スチレンブタジエンゴム(SBR)又は同等以上のもので、水質に影響を与えないものでなければならない。

表 1 化学成分

化学成分	含有量 (%)
C	3.8 以下
Si	2.8 ~ 3.2
Ni	1.4 ~ 2.0
Cu	0.5 ~ 0.8

6. **塗装、酸化被膜処理及び外観** タイカミック 4 0 の塗装、酸化被膜処理及び外観は、次による。

6.1 本体及び駒の塗装及び外観は、JIS G 5527 附属書による。

6.2 連結棒及びボルトの塗装、酸化被膜処理及び外観は、KIS A 130 による。

7. 試 験

7.1 機械試験 本体の引張り試験及び硬さ試験は、JIS G 5527 附属書による。また、ボルトは、KIS A 130 による。

7.2 化学成分 連結棒及びボルトの分析試験は、KIS A 130 による。また、駒は、JIS G 5502 による。

7.3 硬さ 駒の硬さ試験は、JIS Z 2245 による。

7.4 酸化被膜試験 連結棒及びボルトの酸化被膜試験は、KIS A 130 による。

8. 表 示 タイカミック 4 0 には、見やすい場所に、次の事項を鋳出し、打刻などで表示する。

- a) トの記号
- b) Dの記号
- c) 製造年（西暦の下2けた）
- d) 製造業社名又はその略号
- e) 呼び径